

報告書『人として強くやさしく』 の作成に取り組んで

編集代表 片田 孫 朝日

昨年、この報告書作成の代表を引きうけたとき、こういうものにしたらいなと思っていたことがいくつかあります。

1つは、2004年に出版された報告書『だれもがありのままの自分で』が資料集に近いものだったのも、もつとSEANの主張をしっかりと示し、アンケートの分析を読みやすいストーリーにまとめて、全体を読み物にすることに。

もう1つは、SEANのG-Freeの活動は、子どもの力を信じて働きかけるエンパワメントの考え方で、実際、アンケートや子どもの感想からも子どもたちが変わっていくことが読みとれるとても魅力的なものなので、その肯定的な力がよく伝わるものにしたということでした。読んだ人が、ジェンダーにはこんな問題があるのかとよく納

得できると同時に、働きかけ次第では子どもは活き活きと変わっていくことができるんだと元気が出る、勇気づけられるものにしたと思います。そういうことを説得的に伝えられる活動報告は貴重だと思います。

もちろん、報告書の内容は会議に参加した人たちがそれぞれの意見と意見が入っていますが、個人的にはこの2つを特に大切にしたいと思い、会議で意見し、作成に取りくみました。

編集会議は、授業前と授業後のアンケートの分析と文章作りにもつとも時間をかけました。まず、アンケートから読みとれる内容をあげていき、SEANの主張と折り合わせながら議論を組み立て、ジェンダー問題の初心者にも分かる内容でストーリーを作る作業です。たいへんでした(よね、一緒に担当した遠

矢さん&中村さん、一部書いてくれた天野さん)。そして、勉強になりました。参加者のみんなでわいわいしゃべるのは楽しかったです。

アンケート分析の結果は、SEAPログラムで考えている通りに、ジェンダーによる女子・男子の抑圧と「暴力の連鎖」が数値として浮かび上がりました。「女(男)だから」の声かけに対しては女子の方が拒否感を強くもち、自由と自信を奪われていること。男子には暴力被害を受けたときに話をする者が少なく、そういう孤立した者が「やり返す」と答える傾向が見られました。子どもの力を奪うジェンダーの問題がはつきり示されています。

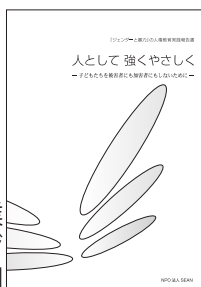
そして、事前と事後のアンケートの対比では、ワークの効果として、男子で「暴力を受けたとき誰かに話す」と答えた者がとても増えたことが、個人的にとても嬉しい結果でした。

自分が男性なので、どうしても男子の経験に注意が向きますが、今回の報告書の作成を通じて、ジェンダーが男子にとっても有

害だという確信をさらに強め、個人の尊重と繋がりの中で生きていくための教育の重要性を思いました。最後に、報告書から生徒の授業感想を引用します。生徒の声にも励まされての道のりだったと思います。

「…男だって家事をやればいいし、女だっているんな仕事をしてもいいと思います。ぼくは、男なのに力がないです。けど男だから力がないとだめという考えをなくして、『ジェンダー』という言葉がなくなるくらいになるといいと思います。(中2男子)セクシュアリティをテーマにした講座記録やスタップボイスも充実しています。ぜひ一読を！」

「ジェンダーと暴力」の人権教育実践報告書
人として強くやさしく
～子どもたちを被害者にも加害者にもしないために～
by G-Freeプロジェクト



大阪府ジャンプ活動助成事業
A4判 全174ページ
定価 2,000円